

【参考】京丹後都市計画区域の整備、開発及び保全の方針

（都市計画区域マスタープラン）

【概要版】

1 都市計画の目標

①都市づくりの基本理念

- ① 都市の特性に応じた公共交通ネットワークへ再構築
- ② 持続可能な都市基盤施設へ再構築
- ③ ゆとりある生活空間の確保
- ④ スマートシティの実現
- ⑤ 府北部地域の特性を生かした産業の集積
- ⑥ 防災の視点を取り入れた土地利用や住まい方の工夫
- ⑦ 集落における地域活力の維持・向上

②区域の将来像

- ◆ 豊かな自然環境と調和した、災害に強く、脱炭素で、誰もが暮らしやすい持続可能な都市
- ◆ 豊かな歴史・文化・自然環境と人々の暮らしが共生する都市
- ◆ 自然環境や産業集積地が共存する強みを生かし、豊かな産業と交流を創造する都市

2 区域区分の有無及び方針

区域区分の有無及び方針

● 区域区分の有無及び方針【無】

- ・ 区域区分を定めない理由
人口及び産業規模等の都市的集積度は低く、また、市街地は区域内の各地に分散して形成されていることから、それぞれの地域の実情に応じた土地利用規制及び都市基盤整備が必要であるため。

3 土地利用の方針

①主要用途の配置の方針

① 商業・業務地

- ・ 都市拠点・地域拠点に商業・業務地が形成されており、住民生活に不可欠な店舗、医療施設、業務施設等の生活機能の確保維持、都市機能分担や相互補完などの拠点機能の充実を図る。

② 工業地

- ・ 赤坂工業団地を中心に産業振興を図る。
- ・ 森本工業団地は、都市の玄関口となる山陰近畿自動車道のインターチェンジ周辺に位置することから、その立地特性を生かして、周辺環境との調和を図りつつ産業振興を図る。

③ 住宅地

- ・ 居住地の形成が進みつつある地区等においては、公共施設の整備を推進しつつ、引き続き居住環境の維持・改善に努める。

③都市再構築等に関する方針

- 人口減少・少子高齢化などの社会経済情勢の変化等を踏まえ、日常生活に必要な医療・福祉施設、商業施設等と集落を公共交通ネットワークで結ぶことで効率的で利便性の高い都市へ再構築する。
- 老朽化が進む道路、上下水道等の都市基盤施設を計画的に維持・管理・更新するとともに、隣接市町との広域連携等による共同化を検討することで、財政面・体制面での持続可能性の向上を図る。
- 農業振興地域の農用地区域は、優良農地等として、今後ともその保全に努める。
- 景観法を活用した実効性ある景観誘導の取組を促進するとともに、地域の個性と特色を生かした良好な景観の形成に関する取組を総合的に推進することにより、潤いのある豊かな生活環境の創造及び個性的で活力ある地域社会の実現を図る。

4 都市施設の方針

①交通施設

① 基本方針

- ・ 国道178号、国道312号、国道482号、都市計画道路峰山インター線、網野インター線などの山陰近畿自動車道のインターアクセス道路、府道掛津峰山線、網野岩滝線（外村BP）、久美浜湊宮浦明線（西廻）等の整備と、中心市街地の活性化を目指し、鉄道駅等と各拠点施設との歩行者、自転車のネットワーク強化を図るとともに、安心・安全な交通環境の整備を図る。

②下水道

① 基本方針

- ・ 下水道の整備を進め、生活環境の向上と公共用水域の保全を図る。

	R2	R22
下水道普及率	91.3%	100%

③河川

① 基本方針

- ・ 流域の考えに基づき保水・遊水機能の維持・確保を積極的に図るとともに、河川改修等のハード対策及び情報伝達等のソフト対策による総合的な治水対策を図る。
- ・ 水と緑のオープンスペースを持つ良好な水辺空間の創出を図る。

④その他の都市施設

① 基本方針

- ・ 日常生活を円滑に営むことができ、災害時にも安全を確保することができるよう、生活関連公共・公益施設の整備を推進しつつ、文化・社会教育・スポーツ施設を整備するとともに、保健・医療・福祉施設を適正に配置する。

5 市街地開発事業の方針

市街地開発事業の方針

① 基本方針

- ・ 都市機能の集約を図るため、都市基盤整備の推進に努める。
- ・ 幹線道路沿道について、用途地域の設定等による適正な土地利用の転換を図る。

② 整備方針

- ・ 国道312号及び国道482号沿道において、適切な都市基盤整備を推進し、公共交通を中心とした環境社会への転換を目指した良好な住宅環境の整備を図る。

6 自然環境の整備又は保全に関する方針

自然環境の整備又は保全に関する方針

① 基本方針

- ・ 美しい海岸の保全と、みどり豊かな都市環境の形成を目指す。

	R2	R22
都市計画区域人口 1人当たり都市公園面積	9.7㎡/人	12.2㎡/人

② 緑地の配置方針

- ・ 人と水と緑の共生する環境を実現するため、自然環境や歴史資源、都市化の状況に応じた水と緑の保全と創出を目指す。